

## 124 No. 4: 地域ぐるみの観光 PR 好感—北関東広域連携が課題— (平成 30 年 6 月 26 日)

先月公表された 2017 年の本県観光客入り込み数・宿泊数推定調査結果によると、外国人宿泊数は前年度 5.5%増の 22 万 2 千人となり、過去最高を更新した。

国・地域別では、台湾、中国、米国、タイ、香港の順に多く、香港は 60%増と大きな伸びを示した。

香港人の多くは花が好きで、桜の時期に訪日する人が多い。昨年は紅葉も大変な人気となり、東日本有数の紅葉スポットである本県も、多くの香港人に楽しんでいただけたと思う。

また、あしかがフラワーパーク（足利市）の大フジにも注目が集まっており、今年は香港の旅行会社がこぞってツアーを造成したので、これまで以上の大幅な伸びが期待される。

こうした中、6 月 13 日、栃木県観光説明会・商談会を開催した。香港でこうした説明会を開催するのは 5 年ぶりだ。

当日はあいにくの空模様で、また中部国際空港の観光イベントと重なってしまったが、EGL Tours をはじめ香港の旅行会社 20 社に参加いただいた。

本県からは、あしかがフラワーパーク、金谷ホテル（日光市）、鬼怒川グランドホテル夢の季（日光市）、三本松茶屋（日光市）、松川屋那須高原ホテル（那須町）といった観光事業者や、日光市観光協会、那須インバウンド協議会など 9 社・団体が香港に訪れた。スライドによる説明の後、各ブースで商談会を開いた。香港の旅行会社は皆、熱心に耳を傾け、栃木の魅力をつぶさに書き留めていた。

翌 14 日からは、香港国際旅行展示会（ITE）にブース出展した。パンフレットを配付し本県の観光情報の発信に努めた。旅行会社を訪問するなど、精力的なプロモーションも展開した。

その結果、ITE に向け新たに造成した 2 つのツアー商品は、200 組を超える予約を獲得できた。

更に、河口湖と鬼怒川温泉のどちらにするか迷っていた 40 名のインセンティブツアー（成績優秀な社員などに企業が報奨で与える旅行）も鬼怒川温泉での宿泊を選択した。これは日光市観光協会の熱意ある PR の成果といえる。

こうしたプロモーションを通じて印象的だったのは、各観光事業者が自らの施設の宣伝にとどまらず、地域の魅力を丁寧に説明していたことだ。香港の旅行会社からも地域ぐるみの情報発信は好感を得ている。さらには県をまたいだ広域的な連携も必要とのご提案をいただいた。北関東が一体となった誘客の取組が今後の課題といえる。



【香港国際旅行展示会の様子】

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993 年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017 年 4 月から現職。栃木市出身。